

風水害対策

大雨情報をキャッチ！

こんなときの
わが家の安全対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

レベル5 大雨特別警報

大雨により重大な災害の起こるおそれが著しく大きいと予想される場合に発表する警報

レベル4 大雨危険警報

大雨により重大な災害の起こるおそれが大きいと予想される場合に発表する警報

レベル3 大雨警報

大雨により重大な災害の起こるおそれがあると予想される場合に発表する警報

レベル2 大雨注意報

大雨により災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報

気象防災速報 (記録的短時間大雨)

大雨警報が発表されているときに、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測、または解析したことを発表する情報

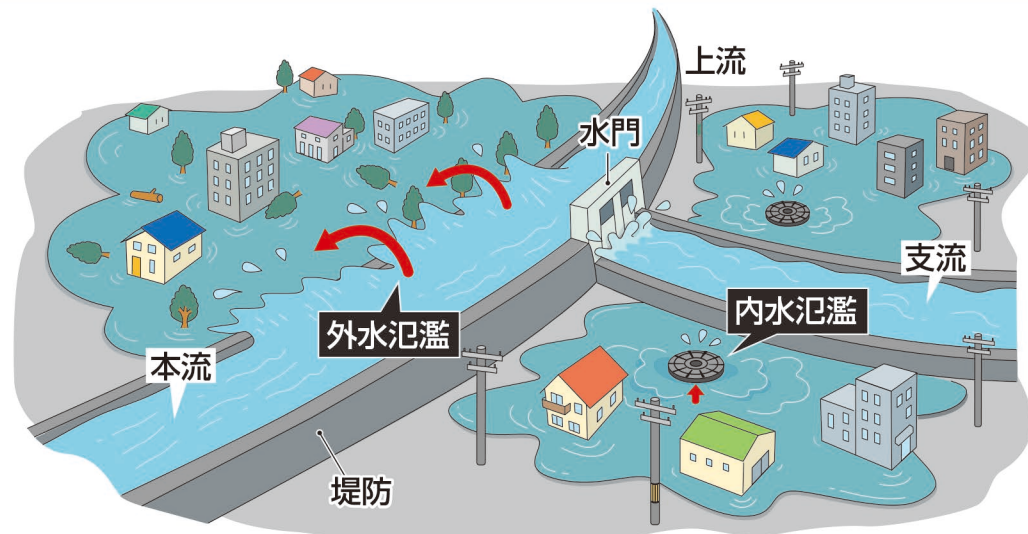
気象防災速報 (線状降水帯発生)

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報

氾濫の種類

外水氾濫

河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤するなどして堤防から水があふれ出す。



内水氾濫

下水道・支川等の雨水排水能力を上回り浸水する。あるいは河川水位の上昇により、下水道・支川等から河川へ放流できず浸水する。

雨の強さと降り方 [雨量の単位は1時間に降る雨量(mm)]

防災気象情報の中で「激しい雨」「非常に強い風」などと表現される雨や風は実際どのような降り方、吹き方をするのでしょうか。雨・風の強さに応じた人や建物などへの影響のしかたを示した表によって、雨や風の強さを数値だけでなく具体的なイメージで防災気象情報をより身近なものにしましょう。

10～20mm未満

やや強い雨

ザーザーと降る



20～30mm未満

強い雨

どしゃ降り



30～50mm未満

激しい雨

バケツをひっくり返したように降る



50～80mm未満

非常に激しい雨

滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)



80mm以上

猛烈な雨

息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる



風の強さと吹き方 [風速の単位m/sは、1秒間に進む距離(m)]

10～15m/s未満

やや強い風

風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない

15～20m/s未満

強い風

風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険

20～30m/s未満

非常に強い風

何かにつかまっていけないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある

30m/s以上

猛烈な風

屋外での行動はきわめて危険



土砂災害対策

土砂災害を発生させる現象には、主に「土石流」「地滑り」「崖崩れ」の3つの種類があり、これらが発生するときには、何らかの前兆現象が現れることがあります。下に挙げたものは主な前兆現象です。こうした前兆現象に気づいたら、周囲の人に声をかけあい、いち早く安全な場所に避難することが大事です。

土砂災害の種類と前兆現象

土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。時速 20 ～ 40km という速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまうことも。



地滑り

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。移動土壌量が大きいため甚大な被害が発生。



崖崩れ

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。



土砂災害警戒区域について

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域